# 令和元年度　全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

# 北九州市立　　若松　　中学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和元年6～7月に、2年生を対象として、「体力・運動能力」と「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。
この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。
本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。また、運動習慣については、学校のみでなく、家庭で運動を一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。
※本調査により測定できるのは、体力・運動能力の特定の一部分です。

## １．調査の目的

⑴　子どもの体力等の状況に鑑み、国が全国的な子どもの体力の状況把握・分析することにより、子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

⑵　各教育委員会、各公立学校が全国的な状況との関係において自らの子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子どもの体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

⑶　各公立学校が各児童の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

## ２．調査内容

⑴　実技に関する調査

※　［8種目］　握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン・持久走、50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げ
※持久走か20mシャトルランのどちらかを選択するため8種目となる。

⑵　質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

## 3. 体力・運動能力に関する調査結果の概要

### 全国・本市・本校の実技調査の結果

＜男子＞

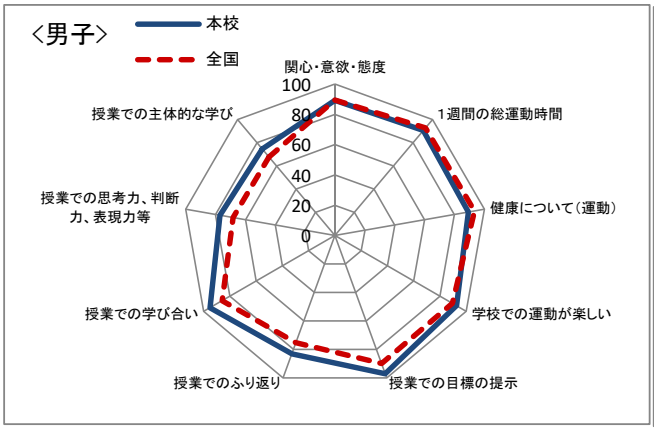
| 本年度の結果 | 握力 | 上体起こし | 長座体前屈 | 反復横とび | 持久走 | 20mシャトルラン | 50m走 | 立ち幅とび | ハンドボール投げ | 体力合計点 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全国 | 28.65 | 26.96 | 43.50 | 51.91 | 398.98 | 83.53 | 8.02 | 195.03 | 20.40 | 41.69 |
| 本市 | 29.63 | 28.64 | 46.77 | 53.12 | 401.16 | 84.64 | 7.87 | 200.12 | 21.00 | 44.54 |
| 本校全国平均以上の種目 | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

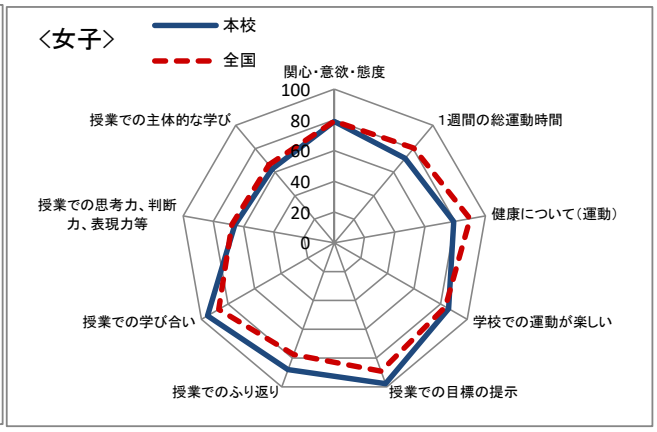
＜女子＞

| 本年度の結果 | 握力 | 上体起こし | 長座体前屈 | 反復横とび | 持久走 | 20mシャトルラン | 50m走 | 立ち幅とび | ハンドボール投げ | 体力合計点 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全国 | 23.79 | 23.69 | 46.32 | 47.28 | 289.82 | 58.31 | 8.81 | 169.90 | 12.96 | 50.22 |
| 本市 | 24.35 | 24.38 | 48.94 | 47.85 | 286.99 | 58.41 | 8.73 | 174.72 | 12.95 | 52.11 |
| 本校全国平均以上の種目 | ○ | ○ | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ |

## 4. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査レーダーチャート




| 質問紙調査の結果分析 |
|---|
| 年度当初本校で行った事前アンケートと同様、今回の結果からも、<br>**①「運動が嫌い」と回答した女子生徒の割合が大きかった。**【分析1】このように、男女で運動に対する意識に大きな差が見られた要因の一つとして、女子生徒の方が、苦手意識から活動に対して消極的になる傾向が挙げられる。<br>**②課題解決に向けた取組（自分に合った練習や場を選択する等）における質問で低い数値が出た。**【分析2】運動好きの生徒を増やすには、「できた」という達成感を味合わせることが必要だと考え、教師主導で授業を行った。そのため、生徒が主体的に課題解決に向けた練習の選択を行う機会が少なかった。今後は、生徒が主体的に課題解決に向けて活動し、技能や思考力・判断力・表現力等を深めることができるよう改善していく必要がある。 |

## 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

### ① 教科（授業）に関する取組（全校で・学年で）

主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、**①発問の工夫、②瞬時の思考を身につける、③じっくり思考の機会を与え、瞬時の判断が適切だったかを考える**といった3つの視点に注目して授業を行った。全学年「まとめをしっかり書けている」と実感できている生徒の割合が8割を下回っているので、例を示したり、意義を説明したりして「振り返り」や「まとめ」に対する生徒の正しい理解に努めてきた。今後も、体育科で定期的にお互いの授業の参観を通して、多くの意見やアイデアを参考にし、授業改善に努めていく。

### ② 運動習慣等に関する取組（1校1取組）

授業以外の場面で運動運動をするのは部活動時のみという生徒が多い。運動部に加入している生徒のみならず、本校生徒全員が運動習慣を身につけるために、家庭でできる体つくり運動や体力アッププログラムを授業で取り入れたり、自らの課題を分析したりすることに努めた。学校だけでなく家庭にも、新体力テストや保健体育アンケートの結果を掲示するなど情報を発信することで、運動に関する課題を周知してもらうことができた。